

埼玉育ちのグローバル人

学び続ける者のストーリー

第3回 「ワーキングホリデー制度を使い、 安く・贅沢な時間を過ごす方法」

平成23年度 「埼玉発世界行き」奨学生 長 拓実 さん



(1) 海外で1年間自由に過ごす

外国で生活する方法は、留学や外国の企業で働く以外にもあります。それが、私が利用したワーキングホリデー制度（以下、「ワーホリ」）というものです。通常の旅行の場合、国によって異なりますが長くても数か月ほどしか滞在できず、その間は観光しかできません。しかし、ワーホリでは、18歳から30歳までの日本国民が協定国に1年間ほど滞在することができ、さらに働くこともできます。例えば、1年間イギリスで過ごした後、半年間オーストラリアへ行き、さらにその後カナダで9か月過ごすなんてことも可能です。

中国・上海での教員生活を終え帰国した私は、「英語圏で生活する夢を叶える」ためにワーホリでカナダのバンクーバーを選びました。明確な理由はなく、程よく都会であり、かつ過ごしやすそうな気候だったからです。ちなみに、カナダに知り合いなど一人もいない状況でしたが、不安な点はなく、むしろ新たな出会いへの期待感しかありませんでした。

(2) ワーホリで初期費用を抑える方法

ワーホリについて調べると、「渡航を支援します」といったエージェントの広告をよく目にします。英語が全然できない人がすぐりたくなる気持ちも分かります。しかし、私はこれまでもこういった手数料が発生する過程はなるべく省くようにしてきました。VISA申請のためカナダ移民局

(英語のページ)へアクセスしネットの情報だけを頼りに必要書類をアップロードしたり、個人で航空券を手配したり、自分に必要な補償だけを厳選し自由にカスタマイズできる保険会社を探したりしました。

渡航後の生活費として前もって日本国内で現金を両替してから渡航する方もいますが、手数料が高いため私はあまりオススメしません。私は海外に行く際は、国内で作成した複数のクレジットカードを持参しています。そして、渡航先の空港内にあるATMにクレジットカードを入れることで、初めて渡航先の通貨を現金で引き出していました。私はこの方法が簡単かつ手数料が安いという認識ですが、必ずご自身でクレジットカード会社に問い合わせをしたうえでお試しください。



家を一步出たときの風景

(3) 渡航してからの家探し

海外での生活拠点となる「家」は、とても重要ではないでしょうか？留学時は学生寮がありました

が、今回はワーホリのため家を自分で手配しなくてはいけませんでした。渡航前に留学エージェントを利用せず、渡航してから家を探す手段を選ぶ日本人はなかなかいないと思うのでご紹介します。

私は渡航に際し、事前にホステルを5泊分予約しました。バンクーバーの中心地に住みたかったので、付近のホステルを選びました。不動産サイトは、ホステルの受付にいたスタッフやショッピングモールの携帯ショップの店員の方に勧められた Craigslist（掲示板のようなサイト）を利用することにしました。



キッチンと Denn (私の部屋)

初日はとにかく町を歩きました。そして、図書館の近くのエリアが住みやすそうだと自分の目で確かめることができました。2日目は、ホステルのネットを使い、住みたい物件を地図検索して、いくつかの物件に問い合わせのメールを送りました。メールのやり取りや物件の下見を続け、4日目に私にとって最高の物件と出会うことができました。立地は最高で、バンクーバーのイェールタウンという川沿いのお洒落エリアです。2LDKの部屋でしたが、私は Denn と呼ばれるキッチン横の食糧庫に住みました。2.5畳ほどのスペースしかありませんが、ベッドやスーツケースを置くスペースがあったのでプライバシーは確保できました。ルームメイトは短期長期を含め、フランスやロシア、韓国、カナダ出身の人たちでした。広いリビングはルームメイトとシェアしていたので、私は基本的にリビングで過ごし寝るときだけ狭い場所に移動するという生活でした。建物はタワーマンシ

ョンだったため、共有スペースに室内温水プールやジャグジー、ジム、サウナが完備していました。気になる家賃ですが、光熱費やネット代、施設利用費などすべて込みで約 63,000 円でした。出会った日本人の方からは結構お褒めの言葉を頂いた物件でした。



リビングで勉強していたときの様子

(4) 語学力を磨く

そもそも私は、スウェーデンの大学が要求する「TOEFL 90 もしくは IELTS 6.5」のスコアを手にするためにカナダへ行きました。カナダでは毎日のように図書館やカフェへ行って勉強し、オンライン英会話を毎日欠かさず行っていました。時間があつたので、自分で英語の試験を分析したり、海外の学習サイトを閲覧するなど試行錯誤を繰り返して、半年で無事に IELTS 6.5 を取得しました。

(5) 日本語学校の先生

私はカナダに来る前に就労経験があつたので、多少の貯金がありました。勉強に時間を費やしたかったので、英語のスコアを手にするまでは働く時間は最低限にすることにしました。教師だったこともあり教育系の仕事をしたかったので、週に1回日本語学校の先生として働くこととしました。そこは、現地の学校に通うカナダ人や日本人を対象に放課後の時間を利用して日本語を教えていました。言葉の壁があるからこそ教師としての振る舞い方を見つめ直す良い機会となりました。

(6) 最後に

私はこれまでのエッセイで交換留学や海外勤務、

ワーホリについて書きました。書いてきた内容は私が経験してきたことのほんの一部に過ぎません。私が常に思うことは、人との出会いに恵まれていたということです。家族や日本の友達、外国で出会った友達、大学の教授など、自分が行動した先にたまたま良い環境が整っていました。皆さんも是非「出会い」を大切にしてください。

以上をもちまして、3回にわたるエッセイの「学び続ける者のストーリー」を終了いたします。私はこれからも新たなストーリーを作るべく、日々学んでいきたいと思えます。最後まで読んでいただき、本当にありがとうございました。